

早期臨床実習を終えて

早期臨床実習を終えて

歯学科1年 伊勢玄徳



私にとって今回の臨床実習で最も大きかったことは、生まれて初めて患者という立場以外で病院内を歩いたことである。歯学部という学部に入學したという実感がよりリアルな体験として得られたことはもちろん、

医療従事者として病院内にいることの緊張感、白衣を着用しながらだからこそ感じる患者さんの気持ちなど、今まで感じることのできなかった病院の雰囲気、身をもって感じる事ができた。

私は第1班であったため、「患者役実習」、「治療見学実習」、「患者付添実習」の順に実習をおこなった。

患者役実習で治療される側の立場に立ってみて改めて感じたことが2つある。1つ目は、治療される患者は治療する歯科医師に多くをゆだねており、何に関しても不安が付きまとう状態であることである。椅子に座り、横になり、口を開け、器具を入れられるというのは、今まで気にもしなかったが、案外不安の伴うことであると感じた。2つめは、歯科医師は自分の行動1つ1つの前に患者さんに声をかけねばならないということである。治療中の患者さんは不安であるから、歯科医師が自分の行動をなるべく伝えてあげることが必

要なのだった。

治療見学実習で実際に治療の現場を見学してみて感じたことは、専門知識と患者さんへの気遣いの大切さである。専門知識がなければ当然のことながら治療などできないということ、各科を見学するたびに実感した。またそれ以上に、治療中やその前後での患者さんとのコミュニケーションに患者さんに対する細やかな配慮がみられた。患者さんの年齢、症状、治療中の照明、痛みなど、患者さんの立場に立った心遣いが随所にみられた。そういった心遣いのできる歯科医師を目指すべきであると確信させられる見学実習であった。

患者付添実習で患者さんの案内をしてみて感じたことは、白衣を着ている時点で病院内では患者さんに頼られる存在だということである。特に今回の実習で付き添った患者さんは新患の患者さんで、新潟大学病院での診察の流れを知らない方だったこともあり、私たちがその流れを把握している必要があった。患者さんを案内する中で痛感したことは、案内する者が不安な状態では患者さんも不安を感じてしまうということである。医療従事者は正しい知識とコミュニケーション能力に加え、常に自信を持った態度が必要になるのだと感じた。

病院内での実習を終えて、自分が近い将来患者さんを治療する立場に立つのだという実感がわいた。医療従事者として働く人間は常に患者さんに頼られる存在でいなくてはならない。大きな心構えと、確かな知識、技術が不可欠であると強く感じた。それとともに歯科医師という職業になるにあたっての課題も分かったと思う。他ならぬ、今後の授業で学ぶ知識と技術を確実に自分のものにしていくことである。すぐれた歯科医師になるため今後一層の努力をしようと思った。有意義な実習であった。

早期臨床実習を終えて

歯学科2年 小林 由奈

早期臨床実習Ⅱとして行った歯科臨床外来の見学・体験、そして様々な講義を通して、現在私たちが履修している多くの専門科目と臨床との関連を感じられた。昨年行った早期臨床実習Ⅰよりも様々な科について詳しく学べ、有意義な時間が過ぎていったと思う。新潟大学を志望する際、カリキュラム中の「早期臨床実習」という言葉に惹かれたのは事実であり、私はこの早期臨床実習を楽しみにしていた。知識が浅い1、2年生でも治療現場にふれることで、確実に将来を考えるきっかけとなり、モチベーションも上がる。例えば、口腔外科における実習では、自分の知識不足を実感した。再建治療として移植するにあたり、顎から上の知識だけ持っていたとしても手術はできない。解剖学や骨学で学んだことを精一杯つなげても、私にはわからないことだらけであった。口腔外科の道に進むと、豊富な知識や優れた技術のほかに、判断力・精神力も必要となってくる。もちろん慣れもあると思うが、治療動画を見るだけでとまどってしまうのではまだまだ未熟だということになるだろう。口腔外科医になるには精神的にも体力的にも強くならなければいけないと感じた。現在、歯に関して、審美的な側面を重要視する人が増えている。健康面から見ても歯が重要であることは言うまでもない。口腔外科の治療により、人々の生活が豊かになることが想像できる。おそらくこれは、口腔外科に限ったことではない。患者さんの多くは「痛みをなくして」ほしいのであり、「きれいにして」ほしいのである。実習中に、治療をする側とされる側では対等な立場でないといけなにもかわらず、歯科医師側が優位になってしまうことが多いという話を聞いた。患者さんに選

択権があるならば、その選択肢や詳しい説明は歯科医師側が提示しないと患者さんには理解ができない。先日美容院で、どれにしますか、と10種類ほどのシャンプーを見せられた。初めて見たために1つ1つのにおいや効果はわからず、結局オススメでお願いします、と言ってしまった。歯科医療においても同じような状況はよくあることだと思う。患者さんの意見を聞きたいのなら、まずは自分に知識がないといけな。それを説明できるスキルも必要だ。臨床における腕の良さに加え、講義で学ぶ知識、そしてコミュニケーション能力があってこそ1人前の歯科医師といえるのではないだろうか。実習でまわったどの科も非常に興味深く、今の時点でやりたいことを絞るのは難しい。これから学年が上がるにつれて、ひとつひとつの科について詳しく学ばらう。その段階で、自分に合った診療科を見つけていこうと思う。臨床実習と講義の間では多くの関連があり、ただ臨床実習を行うだけ、ただ講義を受けるだけではなく、常に関連づけて考えることの大切さを学んだ。また、普段の講義が今後の基礎になることをよく理解することができた。1人前の歯科医師になるには道のりはまだ長いが、これからも臨床を行う立場になった時のことを意識しつつ、基礎的なことをしっかり学んでいきたい。

